

第4章 中心市街地活性化の目標と基本方針

4-1 整備課題の整理

上位計画による課題整理、現況から求められる課題などから、中心市街地活性化の課題をまとめる。

・歴史・文化等まちづくり資源の有効活用

歴史の面影を今に伝える加賀街道、塩の道、雁木の町並みや、ヒスイ等の糸魚川独自の特産品、そして、祭り等の固有の文化などの資源を活かし、糸魚川らしい魅力のある中心市街地の形成が必要です。

・定住人口の減少、高齢化への対応

人が住むことにより街の活力が生まれることから安心して住み続けられる居住環境の向上が必要です。また、高齢化に対応し、高齢者でも安心して生活できるまちづくりが必要です。

・商店街の活力低下への対応

高速道路の開通に伴う市民の買物行動の広域化や、消費者ニーズの多様化に対応し、中心商店街では、郊外にない魅力やおもてなしの心など、地域の特性を活かした魅力ある商店街の形成が必要です。

・街なか散策への対応

市民や観光客等の来訪者が、街なかを見て歩いて楽しめる歩行環境の向上や、歴史や文化が香る雰囲気の中かで買物や食事、そして地域の人達とのふれあいなどが生まれる集い・憩いの空間が必要です。

・市民主体のまちづくり

街の活力を生み出すには、住民・市民が主役になることが必要であり、市民・事業者・行政が一体となってまちづくりへ取組んでいくことが必要です。

4-2 中心市街地活性化の目標と基本方針

現況や課題の整理から、中心市街地の目標を次のように設定する。

●中心市街地活性化の目標

ゆめ街道・系魚川

～出会い・ふれあい・ヒスイのまち～



◆基本方針

1 歴史・文化・交流のある街道づくり

ヒスイと奴奈川姫にはじまり、加賀街道、松本街道（塩の道）の歴史が息づくロマンの街。人・モノ・文化が行き交う交流拠点の街をつくります。

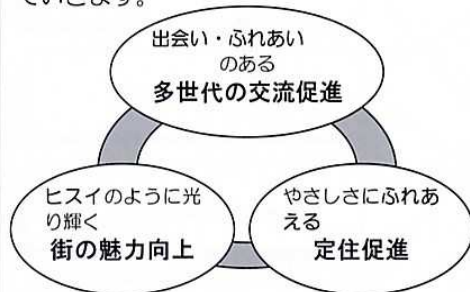
2 やさしさ溢れる快適づくり

誰もが歩きやすく、どんな人にもやさしく迎えてくれる街。人にやさしく、快適な街をつくります。

3 いきいき「かいど」づくり

子供からお年寄り、街を訪れた人達まで、みんなに楽しんでもらえる時間と空間が広がる「かいど」（家の外）のある街をつくります。

上記の3つの「かいどう」づくりを以下に示す3つのポイントを推進しながら行っていきます。



◆中心市街地の将来像

●系魚川にふさわしい、交流と賑わい、活力のある街

あらゆる人・もの・情報の交流拠点として、また、住む、働く、遊ぶ、創造する等の拠点として、活力にあふれた吸引力の高い中心市街地を目指します。

●すべての人にやさしい安全・快適・健康推進の街

段差の解消などバリアフリーのまちづくりを行うとともに、車に乗れない人々でも来訪しやすく、買物や散歩が楽しめる福祉・環境に配慮した、快適に過ごせる街を目指します。

また、歩行者優先道路や憩いの広場等の整備や各種案内板等の設置により、街全体を回遊・散歩できる街を目指します。

●高齢者や若者など、多世代の暮らしが息づく街

多世代の様々なライフスタイルに対応した居住環境を整え、住んで便利な潤いのある「住みたい、住み続けたい」と思える街を目指します。

●個性的で、心浮き立つ魅力がある商店街

買物・遊び・飲食・祭りなど様々な活動が展開され、心浮き立つ空間であり、なおかつ、系魚川らしさが感じられるような個性的、魅力的で「また来たくなる」商店街を目指します。

●市民の手によって創られる街

市民の活動拠点として、市民全体が中心市街地を支え育て、また中心市街地を再生するプロセスにおいて市民・商業者がまちづくりの担い手として活躍する街を目指します。